

第26回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第26回全日本実業柔道個人選手権大会は8月31日～9月1日の両日、全国各地から584名の選手が参加し、兵庫県の尼崎市記念公園総合体育館で挙行された。

選手宣誓をする養父選手(新日鉄)



試合は、男子8階級、女子7階級で国際試合審判規程により行なわれた。男子は、95kg超級・釜原信一(旭化成延岡)、95kg級・宗 真二郎(九州電力)、86kg級・金谷 雄(ダイコロ)、78kg級・土屋好英(東芝)、71kg級・矢野智彦(東芝ブランド)、65kg級・南保徳双(明送)、60kg級・森前高嗣(ヤマコ)、22才未満・谷口裕二(旭化成ベンベルグ)の各選手が優勝した。女子は、72kg超級・国吉真子(コマツ)、72kg級・下田仁美(コマツ)、66kg級・木本奈美(住友海上)、61kg級・小笠原守美(ミキハウス)、56kg級・植田 睦(ミキハウス)、52kg級・永井和恵(ダイコロ)、48kg級・真壁友枝(住友海上)の各選手が優勝した。



開会式であいさつをする斎藤 裕会長

男子8種目、女子7種目の試合成績内容等は次ページ以降に記載しました。

特別功勞表彰



前列左から恵本裕子、田辺陽子、菅原教子。後列 中村兼三と中村行成の兄弟

初日の開会式ではアトラクタオリピックでメダルを獲得した実業団所属の5人を特別表彰した。表彰されたのは男子71kg金メダルの中村兼三(22旭化成)、女子61kg金メダル恵本裕子(23住友海上火災)、男子65kg銀の中村行成(24旭化成)、女子72kg銀の田辺陽子(30ミキハウス)、同52kg銅の菅原教子(23ダイコロ)ら五人。

男子95kg超級

筓原6戦全一本勝ちで初V

86人がエントリーしたが、その内容もポスト小川(直也、JRA)を目指す全日本級の逸材ぞろい。シードの養父直人(新日鉄本社)、下出善紀(旭化成、欠場)、関根(東洋水産)は昨年の順位による。これに大漣、滝本(JRA)、中谷(新日鉄)、浦田(JH日本道路公団)、窪田(旭化成)、松本(JRA)、山田(フジ&トライオーシャン)、岡泉兄(新日鉄)、小林(旭化成薬品)の顔ぶれはベテラン、新鋭が入り乱れて壮観であった。

筓原(しのはら)はアトラクタの小川(JRA)の補欠。6試合を全て一本勝ちで初優勝したが、決勝は1分28秒有効を取って関根を倒し、抑え込みに入って30秒経過する前に主審、「一本」を宣告。時間的に早すぎると見た副審が「まだ30秒のブザーが鳴らない」とアピールしたが、実は「参り」の合図があったためと分かる。しかし、関根も大したもの。結婚して生活安定、心身充実、気迫も抜も冴え渡っていた。



優勝した筓原選手
(旭化成延岡)

1つ1つ一生懸命やる

筓原の話 関根さんとは初対戦です。ともかく勝ててうれしい。関根さんの息があがっているのは分かった。この大会の優勝は世界選手権への弾みということではない。しかし、当面1つ1つ一生懸命にやるのが世界へつながることだと思う。左の支え釣り込み足は合宿で斉藤仁さんに教わった。今後の課題は、技をもっと速く出せるようにしたい。小川さんの引退？気にしないでやりたい。

【成績】

- 優勝 筓原信一 3段(旭化成延岡)
- 準優勝 関根英之 4段(東洋水産)
- 第3位 先山重則 3段(JRA)
- 第3位 大漣賢司 3段(JRA)

▽準々決勝(5回戦)

- 大漣 体落とし 今庄
- 関根 支釣込足 窪田
- 先山 合わせ技 小林
- 筓原 内また 山田

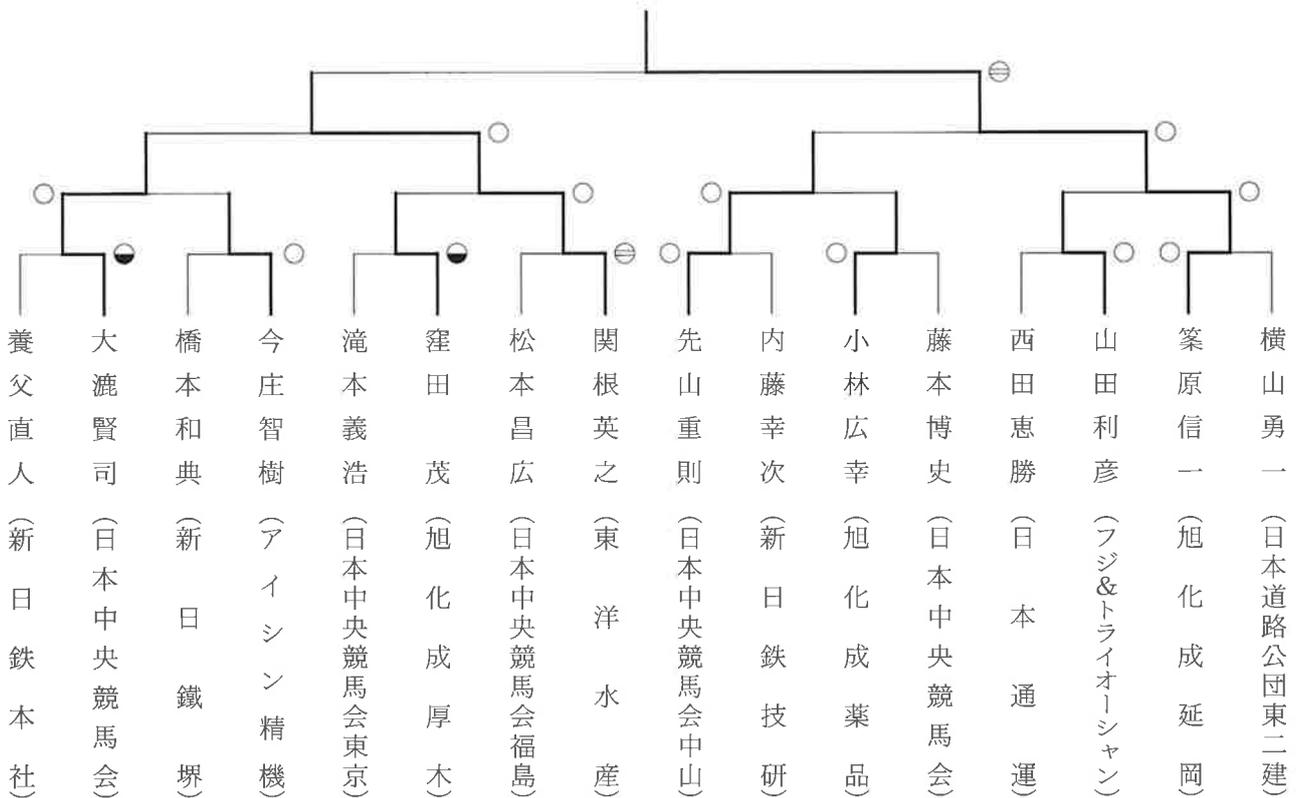
▽準決勝

- 関根 大外刈 大漣
- 筓原 支釣込足 先山

▽決勝(筓原は初)

- 筓原 横四方固 関根

筓原 信 一



男子95kg級

190cm 宗、長身生かす

74人がエントリーしたが、190cmの身長は2人しかいない。その1人が宗(そう)である。ノーシードの宗は三回戦で武田(近畿通関)に払い腰の技有を決め、四回戦も第2シードの187cm大原(東洋水産)を僅差の旗判定で退けた。あとは一気のバク進。決勝は二段モーションのような右大外刈りで豪快にあげせ倒した。湊谷もノーシードから勝ち上がった。きた。右の内股で堺から合わせ技を取るなど際立って見えた。プログラムには(湊谷接骨院)と印刷されていたが、実は(新日鉄)所屬に切り替わっていた。V3を狙う第1シードの秋山(JRA)は優勢に試合を進めながら4分間の時間切り直前、ポイントを奪われて杉田(旭化成薬品)に屈した。第3シード堺は連続3位で手堅い。ベスト4に九電が3人も入る活躍は特記できる。



優勝した宗選手
(九州電力)

「僅差」どころか

宗の話 実は準々決勝で腰痛が発生し、一時は棄権も考えた。だが、せっかくのチャンスだからと思いきや、頑張ることにした。決勝は「僅差」もあるなと考え、早く、早くと先に技を仕掛けた。すると体も思うように動いて一本勝ちになった。

【成績】

優勝 宗 真一郎3段(九州電力)

準優勝 湊谷知幹3段(新日鉄)

第3位 一ノ宮嗣嘉3段(九州電力福岡)

第3位 堺 耕一3段(九州電力)

▽準々決勝(5回戦)

○湊谷 合わせ技 桜井

○堺 巴投げ 町田

○宗 大外刈 小嶋

○一ノ宮 裏投げ 前

▽準決勝

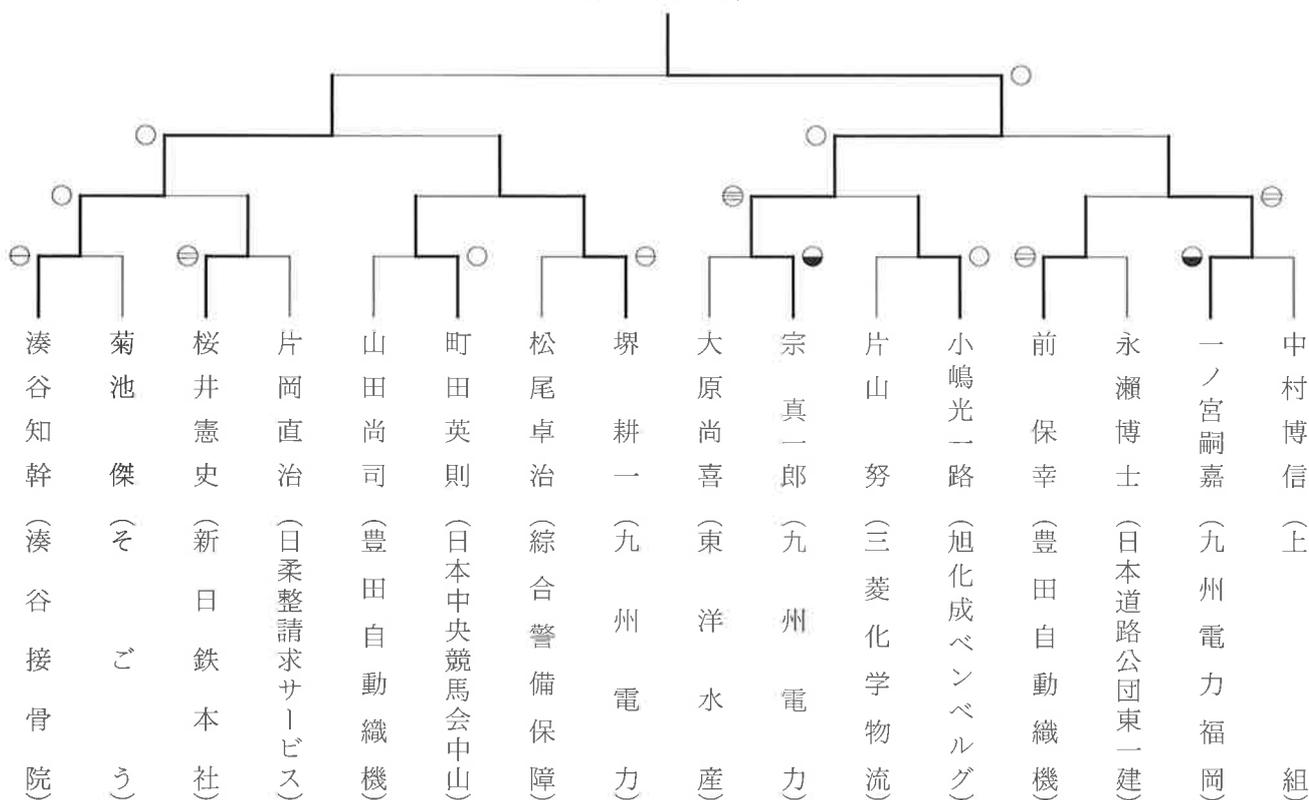
○湊谷 合わせ技 堺

○宗 崩上四方固 一ノ宮

▽決勝(宗は初)

○宗 大外刈 湊谷

宗 真一郎



男子86kg級

シード選手敗れる

77人出場の第1シードで昨年まで2連勝の石田(新日鉄)が準々決勝で激戦の末、姿を消した。第2シード阿部(そごう)も4回戦で藤本(新日鉄)に判定で敗れた。代わってAプールから呉、Bプールから金谷が決勝へ進出した。左と左、金谷は猛然と呉を猛襲し、朽木倒し技有から縦四方固めでがっちり抑え込んだ。自分のパワーに自信を持ち、ハヤブサのごとき敏しような攻撃姿勢で他を圧倒していた。

呉は今春筑波大を卒業したばかり。実業団デビュー戦で第2位は今後を期待できる。知る人ぞ知る、父君の呉勝立氏は天理大主将を務め、一九七二年ミュンヘンオリンピック80kg級銀メダル。69全日本実業団体大会でも河合楽器が準優勝した時の先鋒として活躍した。妹も湊川女子短大から、大体大に編入、柔道では有名な一家である。石田の有効に対し、警告で破ったのは、この呉であった。3位の三宮は昨年78kg優勝から1階級アップ。



優勝した金谷選手
(ダイコロ)

しがみついても

金谷の話 減量もないし、今日は、しり上がりに調子よくなった。双手刈りとか朽木倒しが多いのは他に技がないからで、しがみついても勝とうとする気持ちの表れ。ふだんは大坂府警とか天理大へ出がいこしているが、今後は出る試合を全て勝ちたい。

【成績】

優勝 金谷 雄3段(ダイコロ)

準優勝 呉 浩伸2段(ツクバ計画)

第3位 三宮功一4段(JH日本道路公団)

第3位 中道博之3段(新日鉄広畑)

▽準々決勝(5回戦)

○呉 警告 石田

●中道 優勢勝ち 山本

○三宮 背負投 藤本

○金谷 一本勝ち 渡辺

▽準決勝

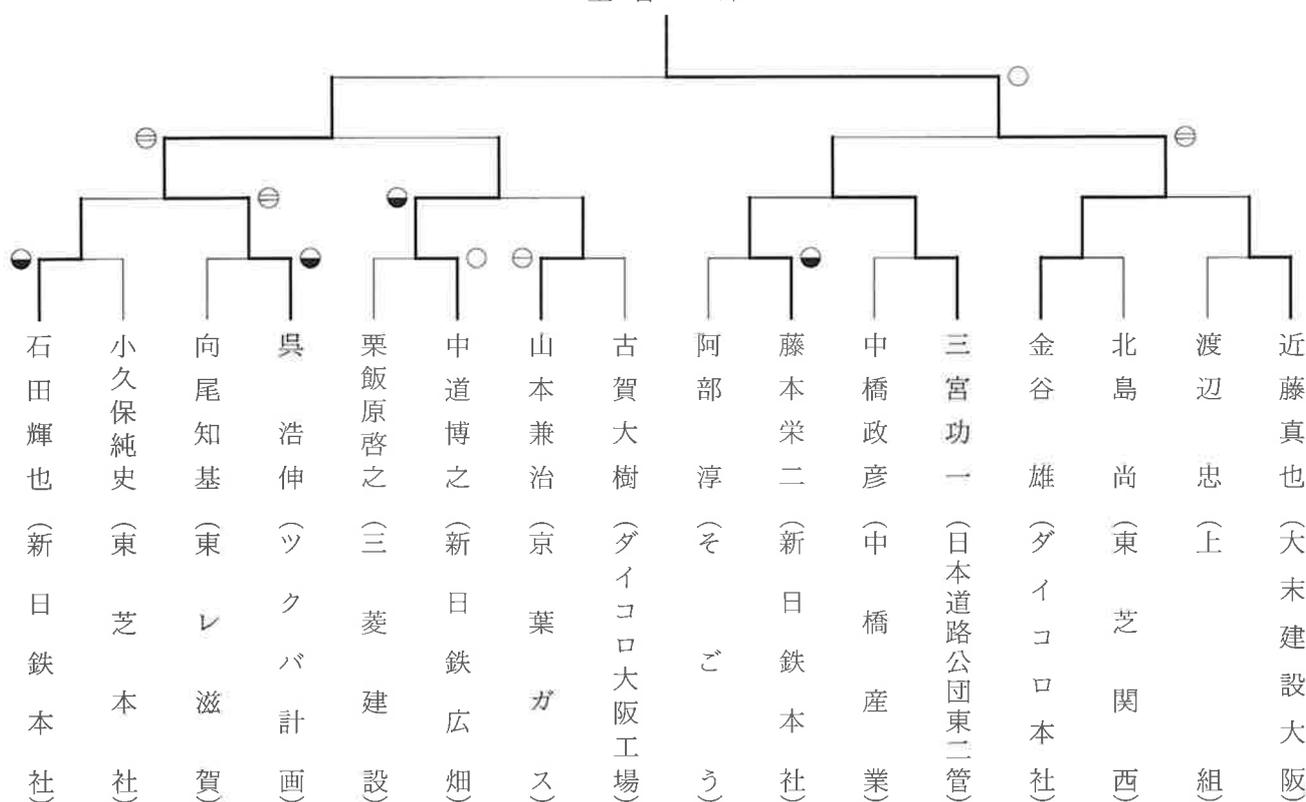
○呉 内股 中道

○金谷 大内刈 三宮

▽決勝(金谷は初)

○金谷 縦四方固め 呉

金谷 雄



男子78kg級

土屋優勝、尾辻は負傷

78人エントリーした中でシードの小椎尾(東レ滋賀)、津久井(タッグ高宮接骨院)、尾辻(丁丑)が早くも潰れた。尾辻は準々決勝で有効リードしながらバッティングで、平田の歯が前額部に激突、血が噴出したため試合続行を断念させた。優勝した土屋は昨年の71kg級優勝者だが、体重を上げて動きも良く、立って寝て思うままであった。

Aプール16番の佐藤玄太(日生)と19番の神永洋一(東レダウコーニング)は別の意味で注目された。佐藤は東海大佐藤宣践氏(元博報堂)の長男で、神戸の団体戦でも奮闘した。初戦は大外刈りで平江(本田技研)に一本勝ちしたが、二回戦で橋本(ダイコロ)に指導を奪われ惜敗した。神永は故神永昭夫全柔連専務理事の甥(故人の弟、正夫氏(旭化成酒類福岡支店長の長男、明大工学部一九大大学院修了)である。父譲りの体落しを池上(京葉ガス)に決めたが、大会白眉の気合いが光った。



優勝した土屋選手
(東芝本社)

ライバルは兼三君

土屋の話 78kgは初めての経験。今日は77kgあったが、まだ71kg級で続ける。決勝は背負いしかないで、やればかかる。ただ背負いにこだわらず、足技とか寝技の強化に励みたい。目標はバリの世界選手権しかない。ライバルは中村三兄弟の兼三君(アトランタ金)寝ても強いので早く立つことなど対策に考えている。

【成績】

優勝 土屋好英3段(東芝本社)

準優勝 長谷川洋紀3段(新日鉄広畑)

第3位 関口敦司4段(NTT東京)

第3位 平田雄也2段(旭化成)

▽準々決勝(5回戦)

●長谷川 優勢勝ち

○平田 棄権勝ち

●土屋 優勢勝ち

●関口 優勢勝ち

▽準決勝

●長谷川 優勢勝ち

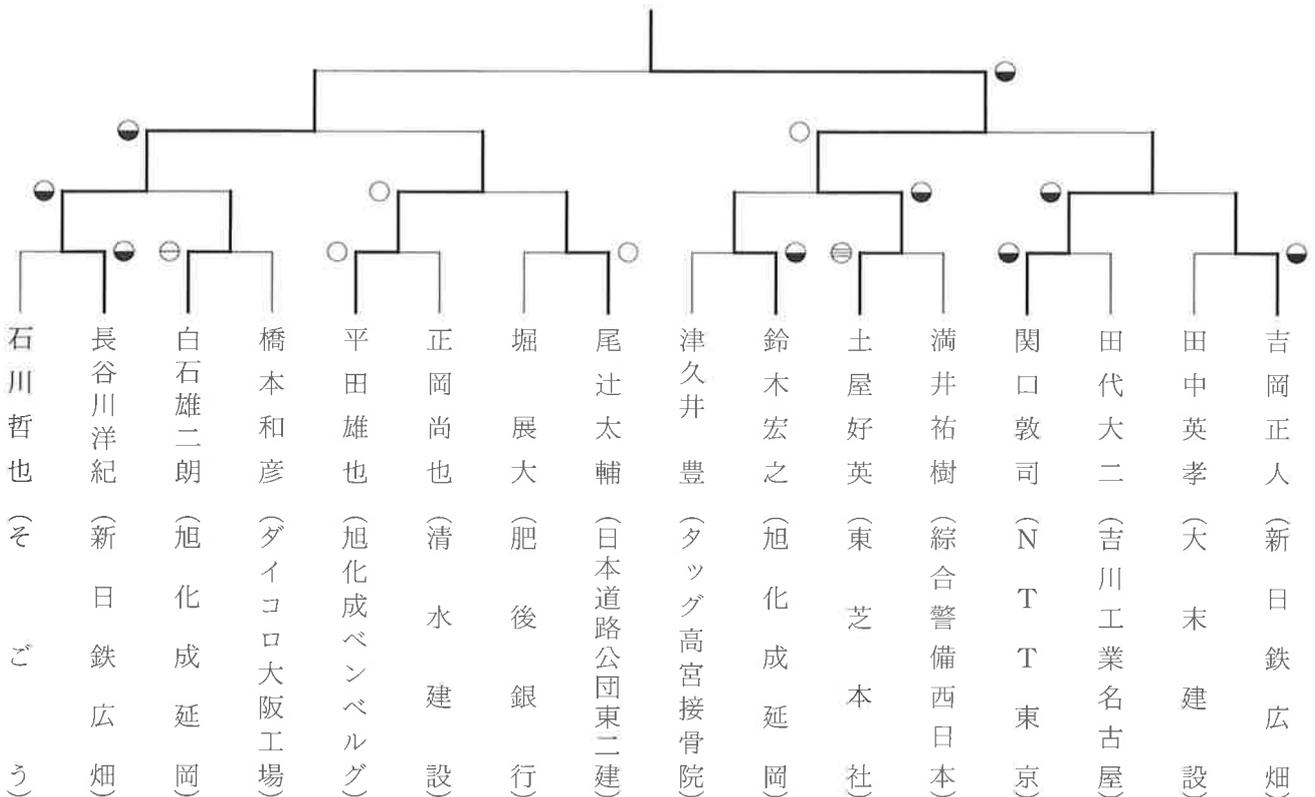
○土屋 崩縦四方固

▽決勝(土屋は初)

●土屋 優勢勝ち

長谷川

土屋好英



男子71kg級

優劣つけ難い好試合

58人がエントリーした。昨年ベスト4の中から3位だった加美(合同産業)だけが第1シードに残っている。土屋とか平江(本田技研)が78kgに移動したためだ。しかし、その加美も欠場している。その中であって矢野と山部がするすると勝ち上がったってきたのは、二人の実力から言って当然すぎることに。決勝は、どちらもとも優劣つけ難い内容であったが、旗は3-0で白が上がった。

三年前の大会はダイコロ武友館最後の会場(9年連続)であったが、そのとき3位入賞した吉田は健在で再び3位を確保した。



優勝した矢野選手
(東芝プラント)

12月の講道館杯めざす

矢野の話 ラストにちよつとポカもしたので、まづいかな?と思っただけ。練習で右胸を痛め、走ったりするトレーニングだけだったので、けいこ不足だった。入社1年目だけ今回くじ運も良かったので……。会社では皆が応援してくれるので、やり甲斐がある。学生時代の授業中と違うのは眠れないことかな?自分は全日本ジュニア1位、講道館杯3位なので12月の講道館杯は必死でやる。

【成績】

- 優勝 矢野智彦3段(東芝プラント)
- 準優勝 山部伸敏4段(自衛隊体育学校)
- 第3位 齊藤武士3段(セコム)
- 第3位 吉田敏男3段(東京消防庁)

▽準々決勝

- 吉田 優勢勝ち 小野寺
- 岩本 優勢勝ち 木野
- 矢野 崩上四方固 岡島
- 齊藤 優勢勝ち 酌河内

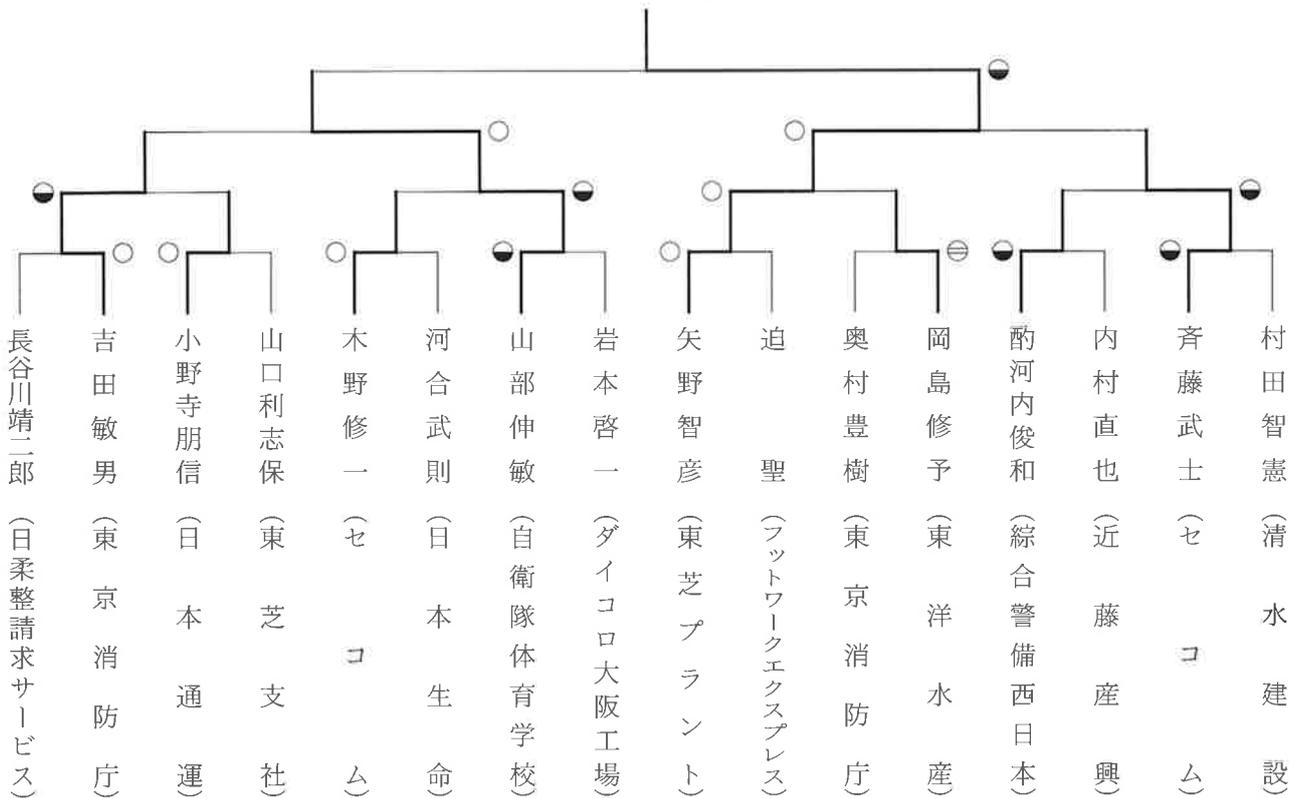
▽準決勝(5回戦)

- 山部 腕がらみ 吉田
- 矢野 三角固め 齊藤

▽決勝(矢野は初)

- 矢野 優勢勝ち 山部

矢野 智彦



男子65kg級

明送決戦は南保に2年の長

45人のエントリーは数において重量級のほぼ半分である。しかし、組み合わせの四角に好選手がそろっていた。第1シードの南保(前年2位)第2の牧瀬、そして大崎兄と和合……。大崎は4回戦で岡本の小内刈り技有に敗れたが、順当と言えるベスト4進出だったろう。南保はよく攻めていたし、和合も牧瀬を討ち取ったのは殊勲であった。一番うるさいのは牧瀬だったかも知れない。

その牧瀬は、4回戦で藤賀(日通)に裏投げで勝った試合でダイナミックな試合をみせた。これまで牧瀬は第22回大会で2位、これで3年連続の3位を占めている。また、60kg級で昨年まで通算3回チャンピオンの村上が今回65kgに上げて2回戦河口(東レ滋賀)に肩車の一本勝ちを光った。



優勝した南保選手
(明送)

先に先に攻めて

南保の話 絶対に相手に先手を取らずまいと覚悟した。注意勝ちできたのも自分から先に攻めることに徹したからだと思う。和合君は順天堂大で、自分は国士大で、ふだんは別々の練習だが、土曜日はいっしょにやっている。同じ職場なのでやりづらいうということもない。自分は去年、強化選手に落ちたので、年末の講道館杯(全日本体重別選手権大会)では、もういっぺん勝負を賭けてみたい。

【成績】

優勝 南保徳双4段(明送)

準優勝 和合 徹初段(明送)

第3位 岡本龍治2段(東日本キョスク)

第3位 牧瀬洋人3段(自衛隊体育学校)

▽準々決勝

○南保 注意 片平

○岡本 小内刈 大崎

○牧瀬 裏投げ 藤賀

○和合 縦四方固め 市川

▽準決勝(5回戦)

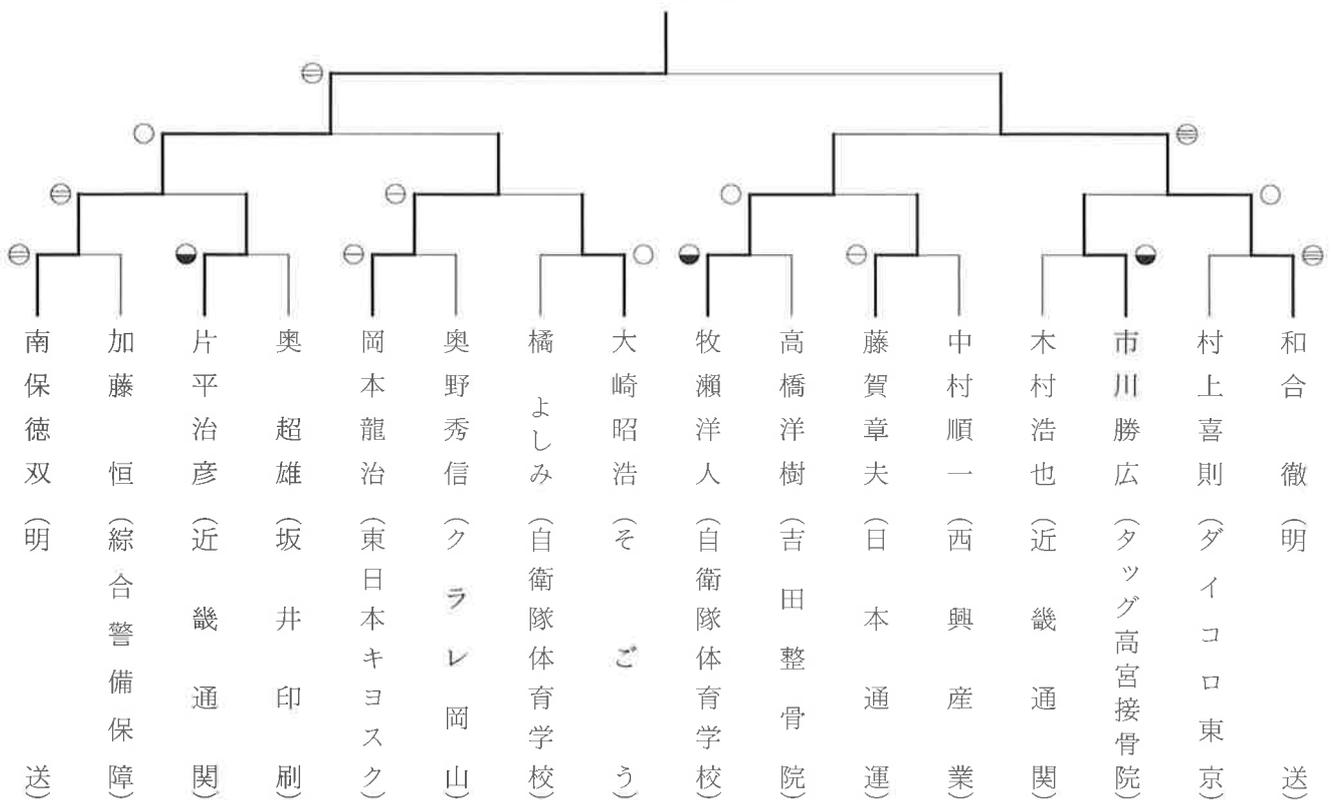
○南保 崩れけさ固め 岡本

○和合 小内刈 牧瀬

▽決勝(南保は初)

○南保 注意 和合

南保徳双



男子60kg級

無名の新星登場

ぐつと下がって28人のエントリー。昨年2位の上野(セコム)がシードされた。しかし3回戦で隈部に敗れた。名前では隈部が最も売れている。準決勝で広島国体(今秋)強化中のヤマコー森前(19歳、開星高)に負けたのは遺憾であった。新星の登場を称賛したい。このクラスのさらなる強化普及を希望してやまない。



優勝した森前選手
(ヤマコー)

背負投で旗を確信

森前の話 前半の背負い投げで一回転させたから判定になっても旗は上がると思っていた。

決勝の相手は強いと聞いていたが、相手はスタミナが切れたようでバテたのが分かった。自分は去年1回戦負けだったし、今年は1回戦突破を目標に置いていた。

【成績】

- 優勝 森前高嗣 2段(ヤマコー)
- 準優勝 越路 亮 3段(総合警備保障)
- 第3位 斉藤龍臣 3段(東京消防庁)
- 第3位 隈部佳克 3段(西日本銀行)

▽二回戦

- 上野 技 有 関根
- 隈部 上四方固め 三原
- 森前 上四方固め 岩木
- 沖野 返し技 谷口
- 岩成 不戦勝ち 中島
- 越路 袖釣込腰 藤田
- 斉藤 縦四方固め 荒井
- 松本 横四方固め 早瀬

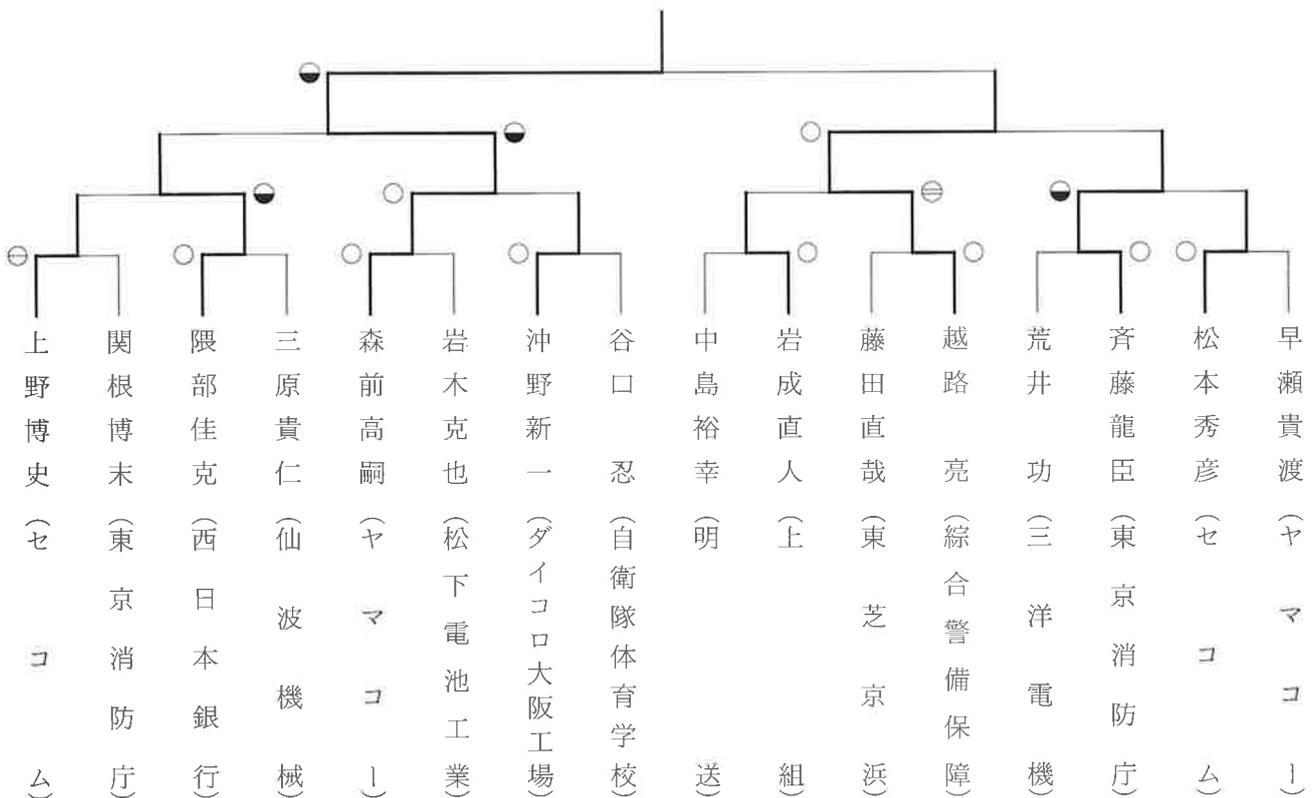
▽準々決勝

- 隈部 優勢勝ち 上野
- 森前 一本背負 沖野
- 越路 有効 岩成
- 斉藤 優勢勝ち 松本

▽準決勝(4回戦)

- 森前 優勢勝ち 隈部
- 越路 横四方固め 斉藤
- ▽決勝(森前は初)
- 森前 優勢勝ち 越路

森前高嗣



男子22才未満

中学卓球出身の谷口

55人エントリーの中から第1シードの谷口と第2シード永井が予想通りの決勝で対決した。初戦で千葉(丁巳)に有効勝ちした谷口は以後3試合を連続左大外刈り一本勝ち。決勝で突如、右に組み替えて相手の意表をついたのは正解だったろう。中学時代は卓球の選手で86kgあった。鹿屋農高で柔道部に入り、県大会は1位。入社3年目(初年度は2回戦負け)職場の練習で下出、杉田両先輩の胸を借りて強くなった。



優勝した谷口選手
(旭化成ベンベルグ)

左を右に持ち替えて

谷口の話 去年は永井君が2位で自分は永井に負けて3位だった。その永井君に勝ったのがうれしい。自分の組み手は左だが、相手も左なので作戦通り右から取ったのが良かった。この大会は目標だった。今後出る試合はすべて1位を狙って行く。

【成績】

- 優勝 谷口裕二 2段(旭化成ベンベルグ)
- 準優勝 永井亮平 2段(新日鉄本社)
- 第3位 前田純也 2段(ダイコロ本社)
- 第3位 小西泰行 2段(武田薬品光)

▽三回戦

- 谷口 大外刈 淵上
- 三好 効果 橋本
- 前田 優勢勝ち 園田
- ⊕吉田 警告 山田
- 永井 払腰 大石
- 小野原 優勢勝ち 竹内
- 小西 内股 丸野
- 新盛 上四方固め 坂田

▽準々決勝

- 谷口 大外刈 三好
- 前田 効果 吉田
- 永井 上四方固 小野原
- 小西 有効 新盛

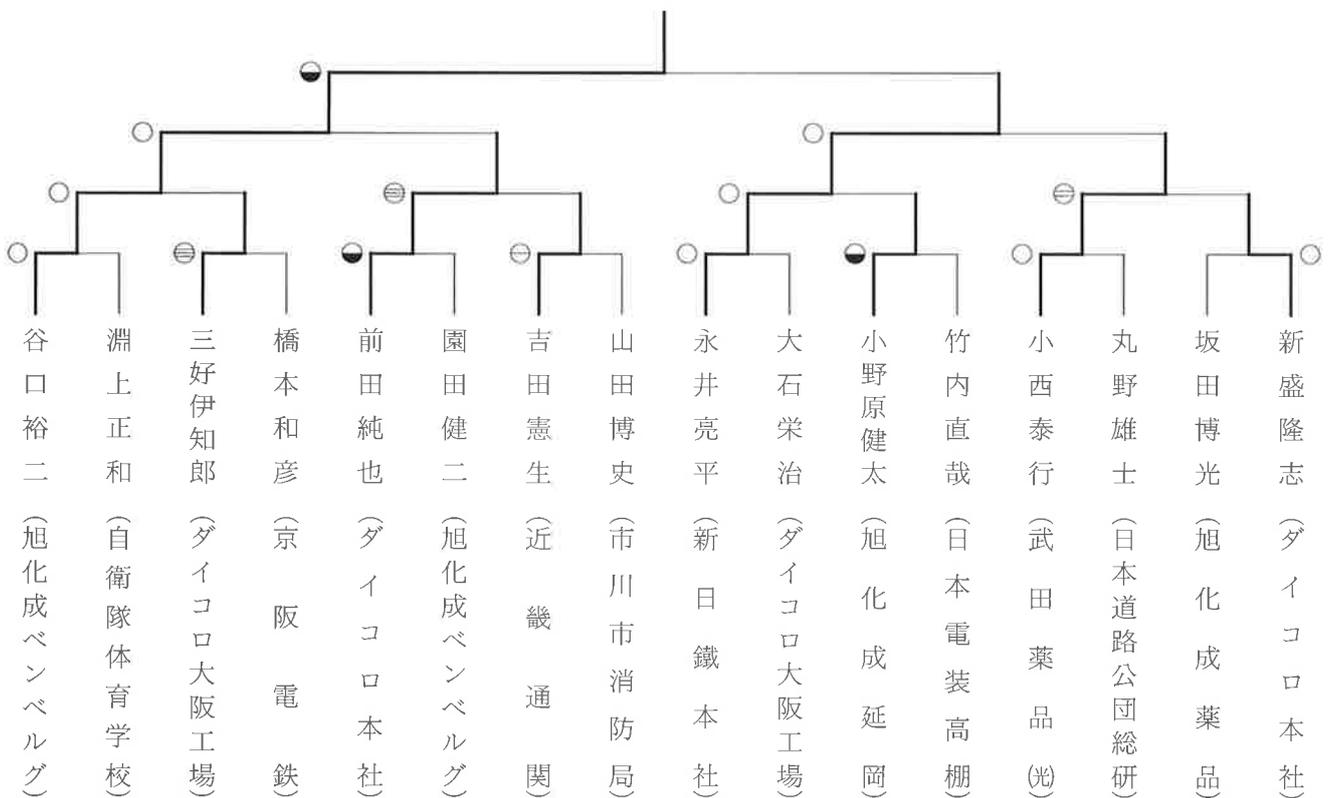
▽準決勝(5回戦)

- 谷口 大外刈 前田
- 永井 上四方固め 小西

▽決勝(谷口は初)

- 谷口 優勢勝ち 永井

谷口裕二



女子72kg超級

国吉が増田を破る

7人の出場は規定により表彰は2位まで。女子も国際ルール通りの7階級に改めたのは第24回大会からだだが、その年、国吉（当時住友海上）は室井（コマツ）に敗れて2位だった。そして昨年の勝者が増田。長身の国吉に対し、背は低くとも右のかつき技に自信を持つ増田は怖い相手だ。国吉は得意の左小外掛けを放ったが、倒れ方は捨て身の谷落としに近い。このため掛けた国吉のポイント（効果）。最後は場外で国吉が内また技有、そのままけさ固めで合わせ技一本が決まった。増田は「力にやられた」と一言。

また国吉はヨーロッパが開発した三角からの抑え込み（上三角固め）を174cmの長身を生かしてマスターし、これを一つの強力武器とアピールした。



優勝した国吉選手
(コマツ)

技を掛け切るように攻めた

国吉の話 アップの時点では調子良すぎたかえって不安も。精神的に直前まで自信は持てなかった。去年の国体で増田さんに負けていることもあったから。小外掛けは狙ったわけではなく、何となく出た。今までは技を掛けた時も中途半端で駄目だったから技を掛け切るように攻めたのが良かったと思う。去年の秋田は4位だったので今年（10月27日）はそれより上を狙い、12月の福岡国際に出られるよう努力したい。柳川高校時代に一度だけ出たきりなので！。

【成績】

優勝 国吉真子3段(コマツ)
準優勝 増田仁子3段(ミキハウス)

▽一回戦

○鈴木 払い腰 仲村なかむら渠

○増田 不戦 寺田

●花増 優勢勝ち 向井

▽準決勝

○国吉 上三角固め 鈴木

○増田 横四方固め 花増

▽決勝(国吉は初)

○国吉 けさ固め 増田

女子72kg級

成長した下田

8人エントリーのうち第一人者の福場が欠場した。この結果、実力伯仲の争いとなって早くから期待されて芽の出なかった下田がやっとチャンスをつかんだ。下田は8月中旬、北海道愛別のコマツ・拓大合宿でしごかれ、その前後も国吉と拓大に通って特訓を受けたのが実を結んだ。木村は出合いがしらの背負い投げなど、いいものを持っている。小取との一戦も僅かだが、木村のうまさ勝ち。



優勝した下田選手
(コマツ)

次は秋田の入賞めざす

下田の話 木村さんとの対戦成績は、これで2勝1分けとなった。久しぶりにムキになる試合をして今は気持ち悪くなった。去年この大会で3位だったから今年は落とすまいと思っただけで皆さんの応援にこたえることができたい。次は秋田の体重別選考試合で入賞したい。

【成績】

優勝 下田仁美2段(コマツ)
準優勝 木村昌代2段(ミキハウス)
第3位 小取美輪初段(コマツ)
第3位 吉野貴代子初段(そごう)

▽準々決勝

○木村 不戦勝 福場

○小取 けさ固め 二宮

●下田 優勢勝ち 佐藤

●吉野 優勢勝ち 谷口

▽準決勝

●木村 優勢勝ち 小取

○下田 崩上四方固め 吉野

▽決勝(下田は初)

●下田 優勢勝ち 木村

女子66kg級

木本の内股に藤本横転

15人のエントリーだが、第2シードの石橋らが欠場した。木本―藤本の対決は予想される顔ぶれ。山口県出身と広島県出身である。龍虎相譲らずと見えたが、木本は大内刈り有効、小外刈り効果とポイントをあげた。時間切れ寸前にあせって藤本のかける左大内刈をこらえて右内股に切り替えれば藤本たまたま畳を背負った。木本は勝つ柔道に徹したということだろうか。しかし、いろいろ新しい職場名が出現しているのは女子柔道の普及と発展のため楽しい。



優勝した木本選手
(住友海上)

次は秋田もがんばる。

木本の話 ラストの内また、うまく入った！藤本さんには3連敗中で一度も勝てなかった。勝ててうれしい。2年前に優勝し、去年は出なくて今年2回目の出場で2という数字が何か縁起がいい(?) 次は秋田で頑張りたい。

【成績】

- | | |
|-----|---------------|
| 優勝 | 木本奈美2段(住友海上) |
| 準優勝 | 藤本哲子2段(タイコロ) |
| 第3位 | 永倉てるみ2段(青峰舎) |
| 第3位 | 宮本智恵子2段(西興産業) |
-
- | | | |
|------|-------|----|
| ▽1回戦 | 縦四方固め | 鈴木 |
| ○高橋 | 警告 | 須磨 |
| ○中原 | 不戦勝ち | 山口 |
| ○永倉 | 不戦勝ち | 石橋 |
| ○宮本 | 不戦勝ち | 横井 |
| ○野沢 | 不戦勝ち | 吉田 |
| ○徳山 | 不戦勝ち | 山内 |
| ○藤本 | 合わせ技 | |
-
- | | | |
|-------|-------|----|
| ▽準々決勝 | 横四方固め | 高橋 |
| ○木本 | けさ固め | 中原 |
| ○永倉 | 払い腰 | 野沢 |
| ○宮本 | 送襟絞 | 徳山 |
| ○藤本 | | |
-
- | | | |
|------|-----|----|
| ▽準決勝 | 送襟絞 | 永倉 |
| ○木本 | 大外刈 | 宮本 |
| ○藤本 | | |
-
- | | | |
|-----------------|-----|----|
| ▽決勝(木本は2年ぶり2度目) | | 藤本 |
| ○木本 | 内また | |

女子61kg級

小笠原がV2

16人がエントリーした。第1シードはオリンピック最終選考会1位の中橋だったが、中橋は第3シード小笠原のかつぎ技にポイントを奪われ、取り返すには4分間が短かった。寝技が強いだけに小笠原は立ち技も思い切りが良かった。中橋、小笠原ともに四国の産である。決勝は互いに知り尽くした同士。白石も最近急上昇で強くなっている。ほんの微差で小笠原に旗が1本よけい上がった。



優勝した小笠原選手
(ミキハウス)

一度浮かしたから勝てた。

小笠原の話 大阪府警の人たちは、うちの会社と合同練習に来るので、白石さんとはよくけいこするし、お互い私生活のことまでよく知っている。私は前からひざを痛めているので、やりにくかった。一度かついで浮かしたから大丈夫とは思ったけど……。

【成績】

- | | |
|-----|----------------|
| 優勝 | 小笠原守美2段(ミキハウス) |
| 準優勝 | 白石千恵3段(大阪府警) |
| 第3位 | 中橋治美初段(タイコロ) |
| 第3位 | 大石愛子初段(そごう) |
-
- | | | |
|------|------|----|
| ▽1回戦 | 一本勝ち | 百崎 |
| ○中橋 | 内また | 菊池 |
| ○小澤 | 優勢勝ち | 豊後 |
| ○山崎 | 一本勝ち | 藤田 |
| ○小笠原 | 両者欠場 | 道場 |
| ○杉村 | 技有 | 三代 |
| ○白石 | 合わせ技 | 北村 |
| ○長岡 | 一本勝ち | 渡辺 |
| ○大石 | | |
-
- | | | |
|-------|-------|----|
| ▽準々決勝 | 後けさ固め | 小澤 |
| ○中橋 | 一本勝ち | 山崎 |
| ○小笠原 | 不戦勝ち | 杉村 |
| ○白石 | 一本勝ち | 長岡 |
| ○大石 | | |
-
- | | | |
|------|------|----|
| ▽準決勝 | 背負投 | 中橋 |
| ○小笠原 | 優勢勝ち | 大石 |
| ○白石 | | |
-
- | | | |
|------------------|------|----|
| ▽決勝(小笠原は2年連続2度目) | | 白石 |
| ○小笠原 | 優勢勝ち | |

女子56kg級

'91世界3位植田が復活

エントリーは13人だが、なかなか見ごたえある内容だった。世界的な植田の優勝は順当すぎるとしても決勝で食い下がる新鋭井上の出足払い(効果)は満場をうならせた。慌てず、急がず植田は大外刈りで追いつき、以後は独演会。新人上田尾も力戦したが、井上には及ばなかった。

【成績】

- 優勝 植田 睦3段(ミキハウス)
- 準優勝 井上くみ子初段(コマツ)
- 第3位 城島直美2段(警視庁)
- 第3位 上田尾理恵初段(住友海上)

▽1回戦

- 田中 けさ固め 萩野
- 有櫛 大内刈り 池田
- 東城 有効 岡田
- 本田 不戦勝 石井
- 井上 上四方固め 南場

▽準々決勝

- 植田 崩上四方固め 田中
- 城島 崩縦四方固め 有櫛
- 上田尾 優勢勝ち 東城
- 井上 合わせ技 本田

▽準決勝

- 植田 合わせ技 城島
- 井上 出足払・大外刈 上田尾

▽決勝(植田は初)

- 植田 横四方固め 井上



優勝した植田選手
(ミキハウス)

世界メダルの時よりも
植田の話 初優勝できてすごくうれしい。世界選手権(1991バルセロナ)で銅メダル取った時よりうれしい。3年間、肩を壊して不振だったから、この大会に賭けていた。一からの出直しなのでとてもうれしい。

女子52kg級

永井の肩固め光る

16人エントリーしたが、オリンピック銅メダルの菅原は欠場した。かくてライバル永井の独走となった。永井十八番の肩固めが、あざやかに決まってV2を達成した。拓大の短大を卒えたばかりの秋山は精いっぱい、2位入賞であった。過去V2(昨年3位)の吉田も退けられた。来年はどうなるか、お楽しみである。

【成績】

- 優勝 永井和恵3段(ダイコロ)
- 準優勝 秋山奈緒子2段(総合警備保障)
- 第3位 吉田清美2段(ミキハウス)
- 第3位 本田美和子2段(肥後銀行)

▽1回戦

- 鳴川 不戦勝 菅原
- 秋山 優勢勝ち 坂倉
- 本田 払い腰 横井
- 大森 不戦勝 五十嵐
- 永井 効果 笹崎
- 吉岡 有効 木山
- 高橋 不戦勝 伊藤
- 吉田 大外刈 曾

▽準々決勝

- 秋山 場外注意 鳴川
- 本田 送襟絞 大森
- 永井 肩固め 吉岡
- 吉田 大内刈 高橋

▽準決勝

- 秋山 背負投 本田
- 永井 背負・大内 吉田

▽決勝(永井は2年連続2度目)

- 永井 肩固め 秋山



優勝した永井選手
(ダイコロ)

イタリアに行けるかな?
永井の話 この大会は社内の人に柔道部の永井も頑張ってますとアピールできるのでうれしい。社長さんも見て下さっているので張り切ってしまう。イタリア訪問団に選ばれるといいな。スバゲッティ好きだし。いや、アトラクタに菅原さんら応援に行つて太つて帰つて来たところなの……。

女子48kg級

真壁が逆転で初V

8人のエントリー。先に衛藤の巴投げでポイントを許した真壁が逆転して逃げ切った。真壁は前年衛藤由佳(妹)に敗れて2位、そのとき衛藤姉は3位だった。一昨年のような姉妹決勝は妹の負傷欠場で見送られた。



優勝した真壁選手
(住友海上)

巴投げは警戒していた

真壁の話 優勝は狙っていた。決勝はミキハウスの衛藤さんかと思っていたら、お姉さんだった。どつちかが出て来ると思っていたので動揺はしなかった。先に巴投げで効果を取られたけど、あの巴投げは警戒していた。でも巴投げを恐れずに先へ先へ出ようとした。秋田の選考会で上位に入り、国際的に通用する選手になりたい。それには力では負ける。技で切り替えようになりたい。

【成績】

- 優勝 真壁友枝2段(住友海上)
- 準優勝 衛藤裕美子3段(コマツ)
- 第3位 望月直美初段(京浜急行)
- 第3位 宮之原まゆみ2段(ミキハウス)

▽準々決勝

- 望月 不戦勝 衛藤
- 真壁 大内刈り 田中
- 衛藤(姉) 横四方固め 向井
- 宮之原 払い腰 山本

▽準決勝

- 真壁 横四方固め 望月
- 衛藤 優勢勝ち 宮之原

▽決勝(真壁は初)

- 真壁 足払い 衛藤(姉)



女子61kg決勝 小笠原かついで白石を浮かす



男子65kg準決勝 南保(上)と岡本(下)



女子48kg決勝 真壁(上)と衛藤(下)



22才未満決勝 谷口と永井

熱戦風景

第26回アトランタオリンピック大会祝勝会・慰労会

全日本実業柔道連盟は8月31日夜、大阪市内のロイヤルホテルでオリンピック祝勝会・慰労会を開き、連盟所属のオリンピック役員4、同選手8、計12人を招待した。メダリスト（1ページに掲載）以外にも小川直也（JRA、欠席）吉田

秀彦（新日鉄）が5位、中村三兄弟の長兄中村佳央（旭化成）が7位など全員が入賞している。齋藤裕会長は「実業柔道のレベルはますます向上しており、今や我が国柔道躍進の推進役として、その役割は一層重要になっております」とあい

さつした。これに対し上村春樹副団長が一同を代表し、戦況と競技成績を報告し、謝辞を述べた。パーティーの合い間にはワイドスクリーンに各選手の活躍が映し出され、真剣に見つめる目が多かった。（宮澤正幸）

お知らせ

平成8年8月30日（金）、大阪ロイヤルホテルで第3回常任理事会が開催され、下記の件を決定した。

1、「第44回全日本産業別大会」について
 (1)開催日、平成8年11月17日(日)

1996年度嘉納治五郎杯国際柔道大会が11月22日(金)から3日間にわたり日本・東京都で開催されるため、変更した。

(2)審判規程、国際柔道連盟審判規程

全日本実業個人選手権大会に続いて、審判規程の統一と、試合の活性化を目指し採用した。

2、海外派遣事業の推進について

海外派遣事業の一環として（全日本柔道連盟の推薦）来る11月16日から2日間にわたりイタリア・ラメツアテルメ市で開催される「第5回ブルティム・トロフィー杯国際柔道大会」に参加することとした。

(1)名称「第5回ブルティム・トロフィー杯国際柔道大会」日本代表チーム。

(2)編成 松本甫団長（ダイコロ）以下、役員6名、選手14名（男子7、女子7）計20名。

(3)期間 平成8年11月8日（金）～20日（水）

事務局



齋藤会長はじめ幹部役員を囲む日本代表役員選手たち



アトランタでの健闘を称える齋藤会長と日本代表役員選手

日本女子柔道初の金メダル

アトランタオリンピック大会で日本に金メダル第一号をもたらしたのは、柔道競技3日目に登場した女子61kg級恵本裕子選手（住友海上保険）であった。1988年、財団法人全日本柔道連盟が発足した当時、日本の女子柔道は、10年遅れていると言われていた。ここ数年間、日本女子柔道界は、人氣が低迷する日本の柔道界を下支えしながら着実な発展を遂げてきた。昨年秋、日本で37年ぶりで開催された世界選手権で日本柔道は惨敗した。その後、一年足らずで開催されたアトランタオリンピックで金メダル3、銀メダル4、銅メダル1、合せて8個のメダルを獲得したことは驚嘆に価する。日本柔道復活に貢献された関係者各位の努力

アトランタオリンピック大会 祝勝会・慰労会

全日本実業柔道連盟



恵本選手を囲む小野田社長と幹部たち

に対し感謝申しあげて、そして今回改めて「神永昭夫の軌跡・ガンバレ柔道ニッポン」に掲載された「神永昭夫と女子柔道実業団チームの育成（住友海上柔道部創部の経緯）」の記事に触れ、今一度企業業の皆様に日本女子柔道の黎明期の一端を紹介することとした。

●神永昭夫の軌跡から抜粋●

神永昭夫氏が残した柔道界への功績の中で特筆すべきものに、女子柔道への取り組みがある。男子からかなり遅れて昭和五十五（一九八〇）年に第一回世界選手権が開催された女子柔道は、その後欧州を中心に飛躍的な発展を見せ、昭和六十三（一九八八）年のソウル五輪で公開競技に、そして平成四（一九九二）年のバルセロナ五輪ではついに正式種目になった。だが、華やかな舞台の裏側で、日本は女子への指導、普及が世界の流れから十年は遅れていた。その歪みを埋めようと、積極的に立ち上がったのが神永氏だった。

全柔連専務理事就任後、まず最初に取り組んだのが、実業団の育成だった。ソウル五輪後の昭和六十四年、日本で女子の実業団といえば、その年の四月にスタートした大阪のミキハウスだけだった。当時は熱心な現場の指導者に支えられ、ようやく女子柔道が国内でも普及しはじめた時期。だが、せっかく高校、大学で優秀な選手が育っても、就職先がない。歴史のある男子と違い、柔道の実績で相手にしてくれる企業はまぶなかつた、という。社会での受け入れ先をどう作るか。女子柔道関係者全員に与えられた大きな課題だった。

そんな時、神永氏の情熱に天も味方したのであろう。バブル絶頂期の社会貢献として、住友海上火災の担当者が全柔連に協賛金などの協力を申し出てきていた。「それならいっそ、女子柔道部を作ってもらえないか」女子の指導者の希望を、神永氏は全面的にバックアップした。

住友側に自ら出向き、「女子柔道は必ず五輪の種目になる。企業のイメージアップにもいい」と熱心に説明、くどき落とした。柔道界のトップがこれだけ迅速に、しかも懇切にねいに企業側にアプローチしたのは、初めてではないか。その結果、秋には全国二番目の女子実業団、住友が首都東京で発足する。その後、小松製作所（コマツ）、あさひ銀行などが次々と女子柔道部を誕生させていくブームの始まりだった。

〔転載「神永昭夫と日本女子柔道実業団チームの育成」(竹園隆浩)〕

【あとがき】

第1回大会は、1971年8月全日本実業団東西対抗大会に代わり新たに企画として大阪市立修道館において15名の選手が参加し開催された。

当初は年令別（4階級）選手権大会として発足、発展する柔道の国際化に対応するため体重別制度の導入を図り、両制度を併用しながら実施してきた。その後、近代スポーツとして国際的な評価が高まり急速に世界各国に普及する状況をふまえて1992年に現在の体重別選手権大会（男子22才未満含む）に移行した。さらに1994年、国際的な選手を育成する見地から国際柔道連盟審判規程を採用した。この間、世界の女子柔道は飛躍的な発展を遂げ、1988年ソウル五輪で正式種目に採用された。当連盟は、これら女子柔道の発展に合わせて1989年いち早く本大会に女子の部を導入し、日本女子柔道の育成にも大きな役割を果たしてきました。本大会の内容は、男子・女子合せて15階級に充実、参加選手は600名の多数を見るに至りました。

このように本大会は、着実な発展を遂げてきました。これは大会の運営に主管として取り組んでこられました西日本実業柔道連盟はじめ、会員企業・関係者のご支援、ご協力の賜と深く感謝申し上げます。そして今回、大会の白熱した熱戦を大会報告書としてまとめ皆様にお届けいたします。

事務局長 村井正芳（記事の一部は、第26回全日本実業柔道個人選手権大会・プログラム・会長挨拶から引用。）



発行日 1996年9月30日
発行 全日本実業柔道連盟
発行人 事務局長 村井正芳
取材協力 ジャーナリスト 宮澤正行
印刷 ダイコロ株式会社